

# 高退協ニュース

## 秋の海辺

### 黒潮本陣の昼食会

前日の雨もすっかり上がり、爽やかな秋晴れの天気恵まれた十二日。昼食会「黒潮本陣」へ二台の車で七名が参加。私の最初の参加は、丁度親の介護で疲れている時でした。秋をちよっと味わって気分転換をしたい、が一日中家を空けることはむづかしいし、思っている時「昼食会」の案内を見て、この時間帯であれば行けるとよるこんで参加したことがはじまりです。

初回は「秋の山」。猪野々の吉井勇記念館を訪ね、夢の温泉での昼食会。山々の美しい紅葉に見とれ、湯槽から眺めた溪谷の美しさに「こころを奪われたことでした。ひと風呂浴びた後のビール、川魚料理の美味しかったこと、久方振りにお会いしたなつかしい人々と話し合ったひとときは、何かほっとした気持ちになり心が癒された想い出があります。



今回も楽しんでの参加。今年も

### 第十九回県高齢者大会開催

県高齢者運動連絡会(小澤幸次郎会長)主催による「第19回県高齢者大会」が、去る十月二十二日、高知市のこうち男女共同参画センター・ソールで開催され、九〇名が参加しました。会長挨拶、高知医療生協の実践報告、基調報告では、小澤幸次郎会長、彼末明事務局長が、「政府・財界による憲法25条への敵視・攻撃が医療・介護・福祉・年金の改悪として具体性を帯びてきた」と指摘。「憲法9条と25条に基づく平和と社会保障を守り、ひとりぼっちの高齢者をなくす地域でのつながりを大事にしなが、安心して暮らせる社会をつくっていかう」と呼びかけました。

「秋の海。道路事情もよく、あつという間に久礼到着。そして風呂へ。青い海と空、ちりばめられた島々の美しい景色を眺めながらの風呂の味はなんとなく幸せ。昼食は名物の「かつお刺身定食、十タタキ」の豪華版。運転手さんに遠慮しつつビールで乾杯。浜田昌俊先輩の「感動の南フランス旅行」の報告(きめ細かに整理されたアルバム、旅行前の学習に一同感嘆、友人の話、小泉批判等々話題には事欠きませんが、最後はお互いの健康を喜び、よく食べ、よく喋った気のおかげない仲間達のほっとしたひとときでした。太平洋をバックにして幸せの瞬間を写真に収め、大正市で買物をし、それぞれの車で帰路にむかいました。

穏やかな秋の一日、海の美しさ、美味しかった。かつお、旧知の人々とちよっとしたひと時を持ち満喫し幸せを感じたシルバー達の今年の昼食会は終わりました。来年も健康で、どこで秋を味わい、何方にお目にかかれるでしょう、楽しみです。

世話役の方々の気配りとサービースに感謝をしつつ。(加藤 菊)



また、記念講演として、岡本真・高知大学理学部教授が「南海大地震と高齢者」をテーマに講演され、中越・神戸などの地震について映像などで具体的に示されるなかで、多くの高齢者が犠牲になっていることを指摘し、今からタンスなど重い家具の固定、家屋の耐久診断を行うなどの対策をとって欲しいと呼びかけました。(報告・小澤)



高知高退協事務局  
2005.11.15  
No.137

## 老声草

小泉総理が今年も

靖国神社へ参拝し、新聞・テレビが一斉に報道した。総理はポケットから何か取り出して賽銭箱へ入

れた。かつて毎日新聞の川柳に「細銭と書いた神主のアルバイト」というのがあった。細銭か巨銭かはわからない。前回和服で今回洋服であった。服が変わっても、御神体も御身体も変わらない。しかし総理の参拝は国内外から大きな反響にあった。総理のみならず自民党議員も同調することは国民の一部が支持するからである。靖国神社には日清、日露、太平洋戦争で戦死した軍人が合葬されている。私の伯父も敗戦の八月十六日ビルマでマラリヤにかかって戦死した。生きていた間に戦争が終わったことを知らされなかったかもしれない。定年退職後、私は戦地巡拝慰霊団に加わった。ビルマには乾季、雨季、暑季とあって、一番気候の良い乾季に行ったが、それでも大変暑かった。実戦に加わった元兵士が同行して、実況放送のごとく生々しい説明をしてくださった。草を束ねて川を渡っていたが途中たばが崩れて溺死したとか、夜の行軍に耐えられなくなった者が手りゅう弾で自爆したとか、私どもの想像以上の苦労があった。歩兵であった伯父も靖国神社に合祀されている。韓国、中国、東南アジアを侵略し何百万人も殺した戦争指導者も祭られている。靖国神社参拝は戦争指導者を賛美することになるから、韓国や中国にとっては耐えられない。最近、自閉症についての講演を聴いた。自閉症はエアコンの音が嫌いだ、夏でも部屋を締め切ったエアコンをかけないとか、

## 社会保障ミニ知識

患者・国民負担増の小泉流「医療改革」はゴメンです

小泉の政権は、来年二〇〇六年の国会で医療関連法案の改悪を計画市、次のような負担増を押し付けようとしています。

負担増計画その一・高齢者の患者負担を一部から二割へ(一定所得以上は二割から三割へ)負担増計画その二・長期入院の食費。居住費、高熱費を全額患者負担に(月三万円)の負担増(一般入院の食費負担の引き上げも負担増計画その三・患者負担の月額上限の引き上げ(高額医療費制度の改悪)高齢者入院四万二〇〇〇円、外来一万二〇〇〇円を一般並にアップ(一般入院・外来とも七万二三〇〇円+医療費の1%を、さらにアップ負担増計画その四・かせ薬、ビタミン剤、一定額までの低額医療などは全額患者負担に)



## 高退協幡多地区望年会

12月13日(火)午後六時から  
四万十市・朝比奈旅館で 開催されます。  
多数ご参加ください。

こだわりがある。また自閉症は次におこることの予測が難しいのである。自閉症的傾向は誰にもあるが、自閉症はこだわりが多項目にわたり濃厚である。靖国神社参拝もこだわりであり、参拝後アジア諸国との外交がにっちもさっちもいかなくなる予測がつかなかったようである。しかも一国の総理が「適切な判断」であったというから困ったものだ。 三谷隆彦

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸ノ内2丁目11-10  
教育会館内高教組気付  
TEL 088-1822-16822  
01665012111893

〒780-0850

郵便振替口座

素泉寺残日録

坪井 幹之

「鉄塔のめぐり」その2

今回は送電線「新改高知線」のコースを取り上げる。旧鏡村川口の郵便局近くから峠道に入る。この道は高知市田行寺奥の柴巻に通ずる旧街道で、かつて度々ハイキングで利用した。小一時間程度で峠を越す。柴巻方面へ少し下ったところから道標に従って、鉄塔一六号へ登る。続いて、五一、五二、五三号と新改高知線を辿って、再び峠へ。もときた道をすこし下ったところで左折。道標がある小道を進むと、五四号の鉄塔に出会う。続いて尾根を越して五五号へ。この間に別の路線の八号鉄塔がある。やがて道は谷間に下り小橋を渡ると、道が二つに分れる。標識に従って左の坂を登る。草場の小道を辿ると五六号に出る。所々に道標があるので迷うことはない。しばらくすると車道に出る。途中の五七号鉄塔から鏡川本流が見下ろされる。やがて道は大河内の集落に降りる。ここから鏡川沿いの県道へは、近道を探して下ることになる。

お次は五八号であるが、対岸の急峻な山腹にそそり立っている。送電線は鏡川の上空を横切っている。行川橋が近いが道がはつきりしない。宗安寺に廻って行くしか方法はない。まずは「みるく電園」に出て六〇号から再出発ということになる。宗安寺変電所周辺は送電線が錯綜、鉄塔が林立している。電園近くに立つ六〇号鉄塔を見つけたら、次は山越して五九号へ、最後に五八号の鉄塔台に登って大願成就ということになる。この間は車道を辿って行くことになるが、辻ごとの道標を認めてゆけば迷うことはない。今回は以上で筆を擱くが、補足をすると、四電の作業道では谷間に鉄製の橋がかかっているが、重量制限の表示があるので、体重と相談して渡ることだ。



私の健康法

これまで、わりと健康に恵まれた事と、生来の怠け者故健康のため、特に何かを心がけて取り組んだという事はなかったように思います。ただこれまではそれなりに過ごしてきたとはいえず、問題はこれからです。

特に最近新聞やテレビでの報道によると、今後介護保険や医療保険の給付率削減の政府の動向など、私達のまわりの状況は厳しくなってきています。人間は誰でも加齢と共に身体機能の低下や故障が出てくるのですから。

今、シニア世代の最も大きな関心事の一つは「元気で長生き」の願いを込めた健康問題だと思えます。先日読んだ本の中に「健康法はその人の生き方でもある」というのが載っていました。昔から言われているように快食、快眠、快便はよい生活習慣により成り立つというわけです。そして、それらを支えているのが安定した精神状態であると。

ストレスは健康を左右する最大の要因だと思えます。このストレスが良くも悪くも質量ともに適度でありよいバランス状態の時が、心身ともに健康であることに繋がっているのだと思えます。

私にとっては退職してストレス（特に職場の人間関係が少なくなり、気の合う仲間との時間制限な

しのおしゃべりや雨の日でも寒い日でも毎朝30分間の犬の散歩に行くことの結果がそれに一致しているのかもわかりません。

他に趣味の山歩きを月3〜4回楽しみます。たまにですが朝4時頃の起床もそれほど苦にはなりません。息も苦しくなる急な山道の途中ではいやになり、「二度と山登りなんかするものか」と思うこともありますが、立ち止まったその時ふと見上げた青い空や白い雲、遠くに見える稜線の深緑色を眺めると思わず涙が出そうになった事もあります。

それでも時には自由な時間をついダラダラ過ごしたり、甘いお菓子の誘惑(?)には最初から白旗をあげています。

これからは、今までと違って「健康」に無関心ではすまなくなってきました。「健康のためには死んでもよい」というような事にはならないまでも、健康に関するシグナルの感度を少し高めて健康診断等も積極的にとりこんでゆかねばと考えています。

江戸時代のロングセラーと言われる「養生訓」を著わし、84歳まで生きたという貝原益軒の精神修養法は、「旅を愛しその紀行文を書く」ことであつたとか。私もその精神の一部でもいただいで体力、知力、気力を問いながら、好奇心をエネルギーに、山歩きや旅行を元気で楽しみたいと願っています。(匿名希望)

俳句

9月18日(日)

高知市鏡川月の瀬橋辺、百草園

合田青幹

月の邸女主の誕生日

月待つや得体の知れぬ闇の来し

吉本伸秋

上げ潮の音かすかなり月を待つ

無患子の闇こんもりと無月かな

中内英明

一と峠越えて尋め行き月の供花

曇くせつきし今宵も無月なる

中内みち代

白萩のほろりこぼるる月の庵

持ち寄りしくさぐさ活けて月の句座

小笠原さちを

筆山の影大きくて無月かな

よからずや月は無くとも影二つ

活動日誌

【9月】

24日 県革新懇25周年

【10月】

12日 昼食会 (黒潮本陣)

18日 第6回事務局会

22日 第19回県高齢者大会

29日 西岡源之さん葬儀

【11月】

1日 「こつたいきょう」編集会

2日 高知9条の会

8・9日 全退教四プロ交流集会

10・11日 高退協親睦旅行・(和歌山)

12日 革新懇全国交流会

15日 第7回事務局会

15・16日 高齢者全国大会

会費納入のお願い

前号のニュースでもお願いしましたが、会費の納入がはかばかしくありません。今年も残り少なくなりました。年会費二千円をできるだけ早くお納めくださいませ。 会計 西田

スキー旅行案内

主催：高退協スキークラブ

すばらしい眺望とパウダー・スノーと樹氷。幻想的な銀世界を思いっきり楽しみませんか!

広大な山麓に広がるゲレンデを征服しましょう。疲れたときは室内温泉や外湯で体を癒しましょう。

日程：2006・1・29(日)～2・1(水)

4泊5日

場所：山形蔵王スキー場

宿泊：おおみや旅館又は蔵王プラザホテル

募集定員：20名程度

費用：大人約80,000円

申込先：土佐山田町150-2

原 淳 (TEL, FAX:0887-52-1685)

みんなで交流しよう山形で!!

# 今、高教組は

秋も深まった一〇月二二日、香川で開催された「全教日・日高教中九州ソフトボール大会」に参加しました。香川が昨年「全教」に加盟したことから我が高教組に加盟要請が来たのです。急遽、選抜チーム(?)を結成し、応援団を含め総勢一五名で参加しました。岡山、山口、佐賀、高知、から一チーム、香川二チームの六チームのトーナメント戦が始まりました。会場は丸亀市土器川の河川敷ソフトボール場で、天然芝の気持ちのいいグラウンドでしたが、強風と寒さには悩まされました。試合は、日高教岡田委員長の始球式が始まり、一回戦が山口チームとの対戦でした。両チームのピッチャーの出来がすばらしく白熱(?)した投手戦となりましたが、借しくも二二三の逆転負けでした。

大会は、山口が準決勝、決勝とも二桁得点で圧勝し優勝カップを持ち帰りました。敗者交流戦では、佐賀県チームとの交流試合でした。一回戦の鬱憤を晴らすかのようになり打ちまくり、橋元前委員長のホームランを含む九得点でピッチャーの力投に報い、勝つことができました。攻撃、守備とも期待に違わず好プレイ、珍プレイの見せ場をつくら



## 短歌

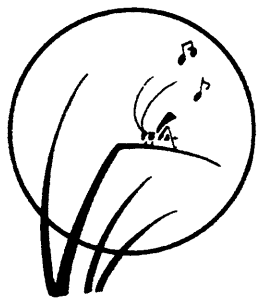
秋すすむ

榊原忠彦

藪柑子の実は赤く照り銀木犀に  
ほふ枝には蟬の抜け殻

成瀬巳喜男の旧作つづけて楽しみ  
り、「めし」に「浮雲」と、われはオ  
ール下

憂ふべき小泉劇場の行方かなな  
めに視聴すそのしたり顔



り、応援団を含め、楽しく充実した交流試合でした。夜は、琴平の宿舎で交流会をしました。金比羅歌舞伎仕様の舞台での出し物披露があり、各県コントや歌などで盛り上がりました。高知は、ソフトボール会場で一回練習した「しばてん踊り」を全員で披露しました。なかなかの評判でした。この「しばてん踊り」を含め、夜の部では圧勝したことを報告します。来年は佐賀県で開催が決定しました。また当日、日高教の岡田委員長から、山梨高教組が全教・日高教への加盟を問う組合員投票で批准が確定したとの報告がありました。全教・日高教の連帯と運動は確実に前進していると改めて実感した一日でした。



ピッチャー朝比奈



## 高齢者の主張大会

叶岡淑子

それぞれの戦争体験ひびき合いホ  
ール揺るがす高齢者の主張

九条のTシャツ姿のOさんは「ひ  
とりよりみんなの幸せ」を訴う

懐かしき「ふるさと」唱えは会場  
は一つとなりて深みゆく秋

## 秋の書

山本晶子

時折に揺らしつつ秋の書読むを  
憧れとして在るロッキング・チェ  
ア

住みなれし福井に優しさ浴けおり  
て角入りしより包みこまれぬ

玄関にただ一鉢の花あればその家  
の人の暮らし偲はる



## 相撲ニニ知識 (六十七)

林 勤

### 戦後三つの改革

#### その一・優勝決定戦

明治四十二年夏場所に優勝制度が確立して以来、一番成績のいい力士が二人以上居る場合は、番付上位の力士が自動的に優勝者となっていたが、昭和二十二年夏場所から「同成績のあった場合は同点決勝を行って優勝者をきめること」になった。

この優勝決定戦制度発足の背景等について振り返ってみる。

時は昭和二十一年、戦中戦後の混乱期から漸く復興の兆しも見え始めた頃である。十一月の秋場所には、前年に大横綱双葉山が引退して大穴があいた感はあるが、戦災の修復、新装成った両国国技館で、久々の十三日興行(十九年、二十年は十日と七日興行)であり、相当の観客があるものと見込んでいたが、思いのほか興行成績が上がらなかつた。危機感を抱いた協会幹部は、相撲記者クラブに「相撲振興策について知恵をお借りしたい」と相談を持ちかけた。記者クラブから三つの提案が返ってきた。その中で、まず導入されたのが優勝決定戦である。

協会が二十二年夏場所から決定戦を導入することにきめた途端、いきなりその場所に四力士による決定戦が実現した。



## 川柳 小澤 幸泉

### 邂逅集 ②

一 眩き・証し・探す

おきれいな話し妬みが顔にみえ  
白地図を埋める時間が少なすぎ  
悲しさに疲れて聖書読んでます  
熟年の峠で重い腹を撫で  
遠慮して生まれたように障害児

この場所は、両国国技館が進駐軍に接収されており、旧神宮外苑相撲場丸太を組み、簡単なテント屋根であった。晴天十日間の興行であった。場所中二日間雨のため順延になり、また或る日は、正午のラジオニュースで「本日の相撲は雨のため中止」と放送され、既に入場している観客との間にトラブルが起きた……等々で、観客の入りは必ずしもよくなかつた。

ところが千秋楽には「満員御礼」の幕が四本柱に貼り出されるほどの盛況であった。「優勝決定戦を見た」という興味からである。なんと九勝一敗の同点者が四人も出るという願ってもない展開となった。

抽選の結果、一回戦は横綱羽黒山―前頭八枚目力道山と大関前田山―大関東富士となり、優勝戦は両取り組みの勝者・羽黒山と前田山となり、奇り倒しで羽黒山が勝つて優勝をした。

前田山と東富士は同部屋なので本場所の取り組みでは対戦しないが決定戦では対戦をした。

このように、初の優勝決定戦は大成りであった。これに意を強くした協会は、次の秋場所から残る二つの改革案を導入し、何れも好評で相撲人気は次第に上向いていった。

なお、本番(通常の場所中)の取り組みでは見ることができないが、決定戦だからこそ見られた数々の名場面の中から二、三挙げてみると、若乃花―貴乃花の兄弟対戦、千代の富士―北勝力の同部屋横綱の決戦、出場最多五人の豪華決定戦……等々がある。

## 訃報

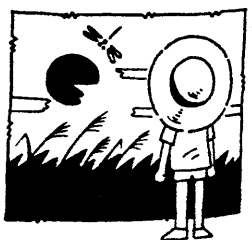
西岡源之さん

10月26日に逝去されました。

中村晋一郎さん

11月2日に逝去されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。



老・眼・鏡  
「戦後史」



中村政則著

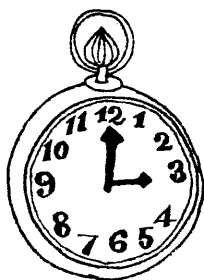
樋口勇雄

高退協の読書会で「戦後史」を  
読みました。四月に退職した私  
には自分史と戦後史が重なりあ  
っています。小学校では、弁当  
に白飯を持ってこられない同級  
生もいて全員が芋の弁当を持っ  
ていった遠足。中学校では勤評  
闘争一色で、闘争を推進する先  
生方、勤評を支持する地域のお  
じさんたち、双方の大人たちと  
論争しました。高校では入学  
早々、日米安保条約をめぐる  
生徒総会の連続でした。その後  
生徒会連合で活動する生徒会執  
行部の同級生と彼らから主導権  
を奪おうとする同級生たちとの  
激しい選挙戦を横目で見ながら  
卒業しました（これが戦後史の  
中の「逆コース」が高校生の中  
に持ち込まれた一例だったでし  
ょうか）。大学では、ベトナム  
反戦運動や授業料値上げ反対闘  
争が展開されていきましたが、初  
めて目にする「理論」にかぶれ  
て、中身の少ない頭でっかちの  
学生生活でした。教職に就いて  
からは、高教組の一員として先  
輩方の後をついて歩んできました。  
大雑把に見た自分史の一部  
分ですが、憲法「改正」が焦点  
にまでなってきた今日の日本の  
動向、そしてその時点における  
総選挙での小泉自民党の圧勝に

望年会・芸能祭・作品展

日時 2005年12月7日(水)  
17時~19時30分  
場所 高知城ホール 4階  
申込先 原 淳 (0887-52-1666)  
中村正博 (088-865-5270)  
小島真子 (088-843-3007)

年に一回の望年会です。皆で集まって来る年の  
望みを話し合ひましょう。たくさんの方々の芸や  
作品を期待しています。  
作品は当日16時30分までにお持ちください。  
その後一週間1階で展示いたします。



車椅子

山本景子

「山の会15周年祝賀会」  
11月30日 5時30分  
葉山 会費6千円(記念誌代含む)  
高退協のクラブ「山の会」は、山行が180回を越え  
ました。そこで仲間達が集って、苦しみ楽しみをふ  
り返り、かつ、提唱者であり、よきリーダーであつ  
た坪井さんに感謝の念を表したいと思ひます。当日  
は15周年記念誌もお渡しできます。  
一度でも一緒に一緒にした方々、どうぞご参加ください。

九月十月は、私には魔の季節で  
ある。在職中もそうであった。さ  
まざまな秋の行事に埋もれ、疲労  
困憊の日々だった。今も休憩を適  
当に入れて行けばいいのだからと  
むしろ無理な計画を入れてしまつ  
ている。秋の作品展への集中が八  
月末ごろから入る。数時間、同じ  
姿勢で画面に向っていると、時も  
忘れてしまっている。「ブツツ」と  
右膝上の筋に音が走る。「アツ」今  
年もまた……。この三年程九月に  
連続して起こっている激痛と腫れ。  
今年はまだ自然治癒なんてのんき  
なことは言っておれなかった。「北  
海道と名古屋に一緒に行つてくだ  
さい」と早くから頼まれていた。  
誘う仲間が仕事上どうしても私を  
連れてゆく必要があるようだった。

が去り、歩かないで済む。特に小  
樽市での乗り物、ホテルのサービ  
スなど人々の親切には頭が下がつ  
た。一週間後、名古屋にも飛んだ。  
北海道行きより慣れて、同行の彼  
女もすっかり車椅子の私に馴染ん  
で、旅に裏道のあることを充分に  
楽しんでるようだった。  
帰宅すれば、すっかり治つてい  
るのかといえはそうはいかない。  
台所、ゴミ捨てなど手抜きばかり  
となる。家の中はどんどん汚れて  
行くのでつい動く、また痛みが  
走っていく。お祝いの席にも車椅  
子で参加すると、私のような人が  
三人も居て驚いたことだった。  
激痛に顔を歪めて染色画に対っ  
ていると、泣いているような絵に  
なつて何枚も没にしてしまった。  
たかが右脚くらいと我慢に慣れて  
いるわたしだったが、ブツツと音  
が脚を走つて一カ月後に病院に行  
った。痛む脚に「ごめんね」と独  
り言を言つて謝った。

「車椅子を手配するのどうして  
も」と言うのである。気遣いのうま  
い彼女の言うとおりにやってみよ  
うかと決めると、車椅子の旅も悪  
くはなかった。  
三食付きの入院のような日々で、  
家事も雑用も遠のいて、脚の痛み

十一月に近くなつてやっと絵も  
順調よく、生活もふだん通りに行  
くのではないかと、歩く喜びを待  
っている。